わくわく倶楽部

江口グループ　第139号　平成31年2月発行

本を読む人が手にするもの!!

江口グループ　代表取締役社長　江口　充

今月も江口グループわくわく倶楽部のニュースレターを読んで頂きありがとうございます。原稿を書いているのは1月11日です。まだ今年はまとまった雪が降らない小松市です。昨年を思い出すとウソのような有難いのですが、昨年の2月に記録的な大雪が降り大変な思いをしました。今年もまだ油断大敵ですね。そろそろ春の足音を感じながら、雪や寒さに気をつけて2月も頑張っていきたいなと思います。

今月は藤原和博さんの『本を読む人だけが手にするもの』という本を読みました。この本は「なぜ本を読むといいのか」ということを考えた本です。「本はいいよ」とか「本を読みなさい」って声はよく聞くと思いますが、じゃあ「なぜ本を読んだらいいのか？」って答えられる人はなかなかいないと思います。この本はその本質を読み解く本でもありました。

「成熟社会」については、これまで講演でも書籍でも繰り返し言及してきた。長年にわたって同じことを言い続けているのには、れっきとした理由がある。日本はすでに成熟社会に移行して久しいというのに、それを現実のものとして理解している人がとても少ないからだ。私は、この成熟社会というものに対する理解がないまま、読書の意味を考えることはできないと思っている。それはひと言でいえば、20世紀型の成長社会が象徴する「みんな一緒」という時代から、21世紀型の成熟社会が象徴する「それぞれ一人一人」という時代に変わったのである。電話の変遷を考えるとわかりやすい。

かつて、電話は一家に1台置かれた状態が常識だと考えられてきた。電話機自体の進化とともに親機を中心に子機が増えていくが、電話回線が一家に1本という「みんな一緒」の固定電話であることに変わりはなかった。ところが、バブル崩壊とともに大きく変化が起こった。1993年に1.4パーセントだった携帯電話の普及率は、1998年には25パーセントにまで急上昇した。その後に見せた急速な普及は、みなさんが実際に体験したとおりである。「みんな一緒」の固定電話から、「それぞれ一人一人」のケータイ電話になってきたことが、時代の変化を如実に表している。

「みんな一緒」の時代には、日本人にはパターン化した幸福論があった。日本人が共通の正解として持っていた「みんな一緒」の幸福論だ。お父さんやお母さんや先生の言うことを素直に聞いて、「早く」「ちゃんと」正解にたどりつける「いい子」にしていると、「よい高校」や「よい大学」に入ることができる。「よい大学」に入ることさえできれば、上場企業や有名企業などといったいわゆる「よい会社」に入れたり、安定した公務員になったりすることができた。そこにどうにか潜り込むことができさえすれば、少なくとも課長くらいにはなれて、それなりの金額の年収を手にすることができた。よほど大きな問題さえ起こさなければ、定年まで勤め上げることができる。そうすると、まとまった金額の退職金を手にすることも可能だ。これが、20世紀型の成長社会における典型的な日本人としての幸福論だった。こうした「共同幻想」を、みんなが一緒になって追い求めていた時代なのである。

しかし、成熟社会になると、ただやみくもに頑張っているだけでは「みんな一緒」の幸せをつかむことはできなくなる。成熟社会では、「それぞれ一人一人」が自分自身で、世の中の流れと自らの人生とを鑑みながら、自分だけの幸福論を決めていかなければならない。それぞれ一人一人が自分自身の幸福論を編集し、自分オリジナルの幸福論を持たなければならない時代に突入したのである。「それぞれ一人一人」の幸福をつかむための軸となる教養は、自分で獲得しなければならない。そのためには、読書が欠かせないというところに行き着くのだ。親が教えてくれるのは、親の生き方であり、親のやり方だ。ところが、その親たちは、黙っていても7割方が幸福になれる時代を駆け抜けてきた人たちなのだ。親の言うとおり、先生の言うとおりに生きたとしても、うまくいく保証はひとつもない。彼らにとって成熟社会は、未知の世界だからだ。だとしたら、自ら切り拓くしかないだろう。だからこそ、人生の糧を得る手段として読書をする必要があり、教養を磨く必要があるのだ。

この本の中で藤原さんはこんなことを言っています。『本を読むか読まないかで、報酬の優劣は決まってくる。本を読むことで限りなくエキスパートの報酬水準に近づいていくか、本を読まずに限りなくフリーターの報酬水準に近づいていくかという分かれ道だ。いっぽう、さまざまな仕事のなかで時間あたりに稼ぐ効率が最も高いのは講演である。ビル・クリントン氏のようなアメリカの大統領経験者になると、1回の講演で数千万円を稼ぎ出す。大統領や首相経験者でなくても、講演は稼ぐ効率が高い。日本の有名人クラスでは、1時間あたり100万円ぐらいになる人もいる。さまざまな分野で「一流」と呼ばれる人は、話すだけで1時間あたり100万円を稼ぐ。その根底にあるのは、聴衆を満足させるだけの知識だ。彼らは、その知識を得るために必ず本を読んでいる。もちろん、聴衆が期待しているのは、講演者が本で得た知識ではない。むしろ、だれも聞いたことがない、その人が実際に体験したことの数々だろう。しかし、人間はすべてのことを体験することはできない。だとすると、資料を読み込んだり、信頼できる書き手の著書を読んだり、信頼できるネットワークからの情報を得て、それに自らの体験を乗せて語っているはずだ。ということは、1時間あたりに生み出す付加価値の総量を上げるためには、本を読むことが欠かせないといえるのではないだろうか。』

現代は、変化の激しい、先の見えない時代です。「今まで通り」というような前例踏襲では、何人もこの時代を乗り切ることはできないと思います。それは、お手本のない時代でもあると思います。自分の頭で考え、自ら解を求めていかなければいけません。その元となるのが、読書による教養や知識や情報なんじゃないかなって思いました。

4代目の江口グループ現場だより

古いモノを安心安全に生まれ変わらせる仕事
安宅住吉橋の補強工事

水道管破裂の様子。
1月5日のNHKニュースより

江口組では梯川で3つの工事をさせてもらっています。安宅の住吉橋の補強工事、能美町の能美大橋の橋脚工事、古府町のコノ下樋管撤去工事の3カ所です。住吉橋の補強工事は1月から本格的に始まり、他の2つは3月に完成予定の現場です。

さて、この3つの工事。補強工事、橋脚の新設工事、撤去工事と工種はバラバラですが、大事なとこというか、本質は一緒だなって思います。それは、古いものをよりよくする工事ということです。小松市だけじゃなく日本全国では、構造物の老朽化が進んでいます。多くの道路や橋、そしてビルなどの構造物は戦後、高度経済成長期の時期に造られたものが多くあります。もちろんもっと前からのものもあります。それが50年、60年と時間が経ち劣化してきました。そしてただ古くなって劣化したというだけじゃなく、昔の基準と今の基準を照らし合わせると、安全性に問題があったり、環境が変わり今の時代に合わなくなったものもあります。

こういったものを、造り直したり、補強し強度を高めて安全性を確保し、これからも使っていこうということになっています。新しいものを造るという工事じゃなく、このような種類の工事が今は増えてきています。新しいものを造る工事で今やっているので代表的なのは北陸新幹線の工事だと思います。もちろん、そのような新設の工事は経済の発展や人との交流なども目的にして新しい道路を造り、地図に残る仕事って言われる工事もありますが、昔に比べると少なくなってきました。

実際に古くなって問題を起こしていることもあります。例えば1月初めのことです。江口組が工事をしている安宅の住吉橋にかかる水道管が破裂し水が吹き出していました。こんなことになってしまったのも水道管の老朽が原因なんじゃないかと推測されます。この水道管の老朽化は全国的に問題になっています。このように、老朽化の問題は水道だけじゃなく日本全国のインフラが抱えている問題です。もし、今回の住吉橋の水道管のようなことが起きると、我々の生活に支障をきたしてしまいます。（ちなみに住吉橋の水道管破裂と江口組がする橋の補強工事は全く関係ありません）安心して暮らすことができませんし、日常生活に大きな問題を抱え不安でしょうがありません。橋なんか、もし崩れたりすると人の命に関わる大問題です。そうならないために、古いものを新しくしたり、補強したりの工事をしています。古いものを壊し新しくする工事では、老朽化の改善ということだけじゃなくて、さらに使いやすく便利にと機能的にも向上させていることが多いです。古いものを補強したり、補修したり使い続けることも大切なことです。

この住吉橋の補強工事ですが、川の上から橋を下から、近くで見ると痛みがかなり酷いそうです。穴が空いていたり、欠けていたりとだいぶ酷い状況になっています。この工事で、しっかりと補修させていただきこの橋を蘇らせたいと思います。この橋は通勤通学で多くの人が使う道路ですし、安宅住吉神社や安宅の海に行く人が多く通る道路です。みんなが使う大切な道路、これからも使う人が安全に通ることができて、生活に支障をきたすことがない安心な暮らしができるように工事をしっかりと行いたいなと思います。工事中はご迷惑をおかけすることがあると思いますが、みんなのために頑張りますのでご理解とご協力をよろしくお願いします。

このニュースレターの他に、江口組公式SNSでも頻繁に情報を発信しています。いいね、フォロー、登録をして現場や社内の様子、社内行事、現場監督の働きぶりを見てください！毎日どれかは必ず更新しています！

㈱江口組公式Facebookページ
www.facebook.com/eguchigumi/

㈱江口紀
@eguch

土木・建築・造園・ドライアイス洗浄と江口グループの工事現場を紹介します。
皆さんのご近所で見かけた時はよろしくお願いします(^^)/

社員みんなでコツコツと募金をしています

江口グループでは毎年、1年をかけて社員みんなでコツコツと募金をしてきたお金を小松市社会福祉協議会さんへ寄付させてもらっています。昨年も1年分の募金を社員を代表し前吉さんと庄源さんが社会福祉協議会さんへ行ってきました。今年は募金だけじゃなく、エコキャップ7000個、重さにすると17kgも持っていきました。自分たちは全然知らなかったんですが、今年で13回目の寄付なんだそうです。結構続いているんだなとビックリしました。

募金は車椅子などの購入に使われ、エコキャップはワクチンの費用に充てられるそうです。これからも地域への感謝の気持ちを忘れずに、地域の笑顔のために活動していきたいなと思います。

2019年もいい年でありますように!江口グループ望年会を開催しました

2018年の暮れの話になりますが、会社納めの28日に江口グループの「望年会」を開催しました。江口グループでは、忘年会ではなく望年会として数年前から開催しています。1年を忘れる会ではなく、次の年が希望があるように、希望ある1年にしようとみんなで一致団結し結束する会として江口会長が提案し続いています。

今年の望年会は、お正月番組でお馴染みの格付けチェック「一流社員は誰だ!」を行いました。ローストビーフやシャンパンなどの高級品を当てたり、会社にちなんだクイズを答えたりと大いに盛り上がった望年会となりました。ちなみに見事に一流社員の座を獲得したのは、山根部長率いるチーム工事部でした。優勝商品として社長が大好きなアルバのカレーをゲットしました。2018年の締めくくりに楽しいいい会をすることができました。ありがとうございます。

2018年の江口グループが全てわかるEguTube

EguTubeのQRコード

全国各地で災害の多かった2018年。我々の住む南加賀も大雪や大雨、そして台風がありました。そんな時に「安心安全なまちづくり」を使命とした江口グループが活躍した1年を振り返った動画を作成しました。

安心安全なまち、住む人が笑顔で豊かな暮らしができる街になるようにと日々頑張ったまちづくりの工事現場の様子や、工事現場でキラキラと輝いて働く社員の様子をこの動画では見ることができます。約7分と長めの動画になっていますが、みんなで一丸となって頑張った一年の様子をぜひ見ていただいたら嬉しいです。

公式Twitter
gumi
(株)江口組公式Instagram
eguchigumi
(株)江口組公式YouTube
EguTube

スタッフ通信

工事部
畦地　翔葉

朝早く起きるのが苦手なので
早く起きれるように
目覚ましを2個かけて
克服できるよう
頑張ります

畦地　翔葉

総務部
庄源知加子

脂肪をやっつけたい!!!
今年から週1で運動します☆
春からはウォーキングも
男の子3人の母は体力が必要です
ヤセて体力つける!!

工事部
長谷川恵章

面倒くさがりな
自分の心

総務部
喜多　小純

脂肪!!
食欲があるから元気なのは
分かっていますが… 若い頃と
変わらない食欲の為、どんどん
脂肪がつき放題
やっつけたい!…と思うだけ

2019年 やっつけたい事は、
己です。
自分に甘い部分を
少しでも減らして
頑張ります!!

環境建設部
村上　昌洋

年々気になってくる
身体についた
お肉プヨプヨ～
やっつけたいです～
小山

工事部
小山南海子

こんにちは。2月になりましたね。
今年の冬は雪が少なくて
本当にありがたいです。
今月は**“やっつけたいもの”**です。

お店を紹介、
みんなに
知ってほしいこと、
ご意見・ご感想などが
ございましたら
ご連絡下さい!

発行元
EGUCHI
江口グループ
株式会社 江口組
小松市殿町2丁目66番地
TEL.0761-24-1311(代)